

大津市民児協連理事「県外研修会」を実施

大津市民生委員児童委員協議会連合会では、6月21日(火)～22日(水)に、理事37名他、大津市・市社協・事務局の計41名で28年度の理事研修を行いました。今年度は金沢市民児協を訪問したほか、金沢福祉用具情報プラザや福井市防災センターを見学・研修しました。

【金沢市民児協を訪問交流研修】 まちぐるみ福祉活動推進事業に注目！

＜金沢市の概要＞面積約468㎢ 人口約453,000人、高齢化率25.2%、地区民児協数54地区 民生委員定数1,078名。

主な活動については大津市とほぼ同様とおもわれますが、特長的な活動として「まちぐるみ福祉活動推進事業」が挙げられます。

—まちぐるみ福祉活動推進事業とは—

この事業は市民が豊かに暮らせる福祉のまちづくりを旨とし、地域福祉の推進のためのネットワークの組織づくりと在宅生活の支援活動等を行うことを目的としています。

事業を実施するために、「まちぐるみ福祉活動推進員」を地区民生委員児童委員1名につき2～3名を委嘱し、地区民生委員児童委員が中心となった「まちぐるみ福祉活動推進チーム」を組織して、地区の福祉活動、生活支援等を活動実施しています。

このための活動費として行政より地区高齢者数に応じて活動助成金が交付されています。

【金沢福祉用具情報プラザ】 金沢市社会福祉協議会運営

その福祉用具、本当にあなたに合っていますか？ 「見て・ふれて・体験」をコンセプトにした、日本最大級の福祉用具・バリアフリー住宅改修モデルの展示場で今回は専門スタッフの案内で住宅改修を行うときのポイント、最新の福祉用具の説明を聞きながら用具の正しい使い方、介助の仕方などを体験・学習しました。



【福井市防災センター】

福井市は戦後復興間もない昭和23年6月に福井大地震(震度6、マグニチュード7.1)に遭い、近年では平成16年7月に福井豪雨に見舞われ、いずれも多くの人や建物等に甚大な被災に遭われており市民の防災意識は非常に高いと思われます。今回の見学では福井大地震、福井豪雨時の市内被災状況と現在の福井市が実施している災害対策について説明を受けた後、福井大地震の揺れや火災シミュレーション、暴風などを体験研修しました。過去の災害から学んだ福井市の充実した防災の備え(飲料水、食料、避難所、防災無線等)と防災意識の高さがうかがい知れました。(広報部会・古家)



災害時における民生委員児童委員の活動

～熊本県大津町に学ぶ～

本年4月14日21時26分に熊本地方を震央とするM6.5の地震が発生し、熊本県益城町及び西原村では震度7を記録、また同月16日午前1時25分にも熊本地方を震央とするM7.3の地震が発生し、熊本市や大津町などでは震度6強を記録しました。

今号では、同じ「大津」の縁から大津町に派遣された社協職員が派遣時に何を学んだか、また民生委員児童委員が震災時に何を感じどのように行動したかを、震災後初の5月定例会での主な発言内容をもとに、レポートいたします。

<民生委員は、いかに動いたか！>

1) 地震時の初期活動(避難・避難誘導)について

- ◆震災時、「あまりの怖さで動けなかった」、あるいは「自分の身を守るのに精一杯だった」
- ◆区長自治会役員と一緒に高齢者名簿をもとに大声を出して一人ひとりの存在を確認して回った。
- ◆1回目電話で(安否)確認したが、連絡がとれない所は履物を数足持って自転車で訪問し全件訪問、安否確認を行った。



避難所における避難風景
(大津町総合体育館)

2) 高齢者の安否確認、見守り活動について

- ◆避難所に行き高齢者の確認と見守りを行った。
- ◆区長・自治会役員と手分けして、一人暮らしの高齢者名簿を基に安否確認を行った。
- ◆他市町村に身を寄せている人や入院中の要援護者の確認は難しい。
- ◆本震後水電気が止まり、友人宅でおにぎりを握って、自宅で過ごしている人や、一人暮らしの人に配り、大変喜ばれた。

3) 地域での活動 自宅・避難所・車中泊について

- ◆自主的に米・みそを持ち込み、炊出しを行った。
- ◆食料、飲み物の買出し、川からトイレ用の水を汲んだ。
- ◆避難所への送迎、支援、トイレ等の清掃活動。一人暮らし高齢者に弁当、惣菜4～5日配布。

4) 民生委員として気付いたこと

- ◆避難所の中には介護が必要な人もおり、その場にいる人が対応せざるを得ない状況が起こる。
- ◆避難所まで坂道が多く高齢者には無理と考えられるところもあり、避難所の再検討が必要。
- ◆防災リーダーと住民との間において認識の差がある。日頃の防災意識の高揚が大切。



避難所における避難風景
(大津町老人福祉センター)

<大津市社協からの支援活動で見たこと>

以上、議事録に記載された主な発言を見てきましたが、議事録には自らも被災者であるにもかかわらず、他の被災者に対する大津町民生委員の思いのこもった発言が多数記載されており、今後参考にすべき点多々ありました。

そのような中、支援活動から見えてきました課題としては、ボランティアに対するニーズの少なさです。
(6/29 現在、倒壊等家屋 3522 件、ボランティア要請 529 件)

中でも要援護者台帳などに記載され、被災された人のニーズは、どの程度あり、どの程度処理されたのか、今後どのようなニーズが求められ、対応への可能性の分析が必要と考えます。

大津市で同様の事が起こった時に、ネットワーク台帳などに記載されている人たちのニーズを誰が、どのように把握し、どのように処理していくのかは今後の検討課題でもあります。

最後に、全民児連では、今回の熊本のような事態が生じた時の民生委員の心構えを示していますので、一部ではありますが、紹介しておきます。



被災した農具小屋
(杉の木の支えで何とか倒壊を免れた)

1、自らの安全と健康を守ることがなにより重要

2、民児協だけでなく、地域ぐるみの活動として取り組む

地域における要援護者の数は相当数に上り、その支援には地域住民の協力が不可欠、住民を巻き込んだ地域ぐるみの活動としていく。

3、災害時の委員間の連絡確保と民児協機能の早期回復を重視する

大規模災害に際しては、通信手段等の喪失により委員間の連絡が困難となり、各委員が孤立しがちとなる。

それだけに民児協内部において、発災後の役割分担を明確にしておくことが必要。

4、民生委員同士の支え合い、民児協による委員支援を重視する

(出典:「民生委員・児童委員による災害時要援護者支援活動に関する指針」(抜粋))

個人情報取り扱いにご注意ください!

私たち民生委員児童委員は、居住者情報や高齢者・障害者の情報など、多くの個人情報に接しています。

委員の皆様におかれましては、情報の取り扱いや管理に留意されますように、また台帳を持ち歩いたり、コピーされることは絶対に避けられますよう、ご注意ください。

平成 28 年度第 1 回専門部会 視察研修報告

< 児童部会 >

児童部会部会長 橋本享子

児童部会の研修は、6月24日(金)に彦根市鳥居本町にある社会福祉法人さざなみ学園を視察しました。さざなみ学園は、虐待などによって保護者に養育させることが適当ではないと判断された児童を保護するための児童養護施設で、「こころとからだの療育センター」として平成5年に開設されたものです。

入所児童の定員は50名ですが、現在小学生2名、中学生13名、高校生27名と卒業生1名の計43名が入所しており、高校生8名が県立・私立の高校に、34名が学園に隣接する県立鳥居本養護学校に通学しており、医療・心理治療と生活指導によって、基本的な生活習慣を再確立する指導が行われています。

過去5年間に退所した児童の追跡調査によると概ね8割が良好に社会適応しているとのこと。生活棟と治療棟を見学しましたが、清潔でよく整頓されており、職員の皆さんの不断の努力に敬意を表する次第です。



< 障害者部会 >

障害者部会部会長 瀬古建一

障害者部会は、6月28日(金)に奈良にある、社会福祉法人青葉仁「あおはにの家」を訪問しました。この施設は、知的障害者で18歳～65歳の約100名の方々が利用されています。

施設には、就労継続支援事業B型と就労移行支援事業があり、入所時の面接の際に決められますが、入所後の途中変更もできるとのことです。この人達の作業所が8ヶ所あり、それぞれの適性に合った作業所に行かれます。

ほとんどの方がB型で1つの作業に一生懸命に取り組んでおられ、木工班ではカヌーを10艇も作り、何度も琵琶湖に来ているとのことでした。また、就労移行支援事業では、一般企業に就職するための準備段階として、マナーや服装、履歴書の書き方等の学習もされています。施設では、その人のできることや本人の希望を通して「成長と変化の機会につなげて行くことが心(命)を輝かせること」を大切に日々の支援に頑張っておられます。



< 主任児童委員部会 >

主任児童委員部会部会長 本田 彰

主任児童委員部会は、7月5日(火)に奈良少年院への視察研修を行いました。施設の性格上、携帯電話・カメラ・タバコの持ち込みは禁止で、バスに置いて院内に入りました。

前半は、施設の概要及び特色ある教育内容の説明を受け、後半は施設の見学と質疑の時間で、各教室と外の広い広場を見学しました。院生により多くの野菜等の栽培が行われており、帰りにはその野菜の即売がありました。

この少年院は、主に傷害・恐喝等の悪質な非行歴の少年を収容しており、累犯少年が多く、加えて恵まれない家庭で育った少年が多く、所員の指導が大変とのこと。

そのため、出所後の少年たちの就職先が大変厳しい状況にあり、受け入れ事業所の開拓など就労支援をいかにしていくかが大きな課題と聞かされました。

★編集後記★ 私たちの任期は残すところ2ヵ月余りとなりました。留任委員、退任委員どちらも民生委員児童委員・主任児童委員として、自身の活動軌跡を振り返っている時期ではないでしょうか。“聴くが効く・あなたの傍に私がいま” “そこにいるだけでほっとする” 民生委員の先輩であり天津市社協相談員であった故熊沢孝久氏の日めくり“まいにち熊やん”を見てみると、「まあ そんなこっちゃ」と独特の関西弁で語りかけ、“民生委員の心”を示して下さる気がします。(津田)